

～子ども・若者の意見を聴取・反映するための仕組構築へ向けた審議～

- 01 子ども・若者総合計画での位置づけ
- 02 仕組構築へ向けたロードマップ
- 03 仕組構築へ向けた附属機関での審議
- 04 令和7年度の取組みについて(実績)
- 05 豊島区の意見聴取・反映の仕組について

01 | 子ども・若者総合計画での位置づけ

新たな計画においては、これまでの「PDCAサイクル」に基づく検証を強化し、豊島区独自の手法である「豊島区子ども・若者アクションステップ」を新たに導入することで、区のあらゆる取組に子ども・若者等の意見を反映させていくことを明記

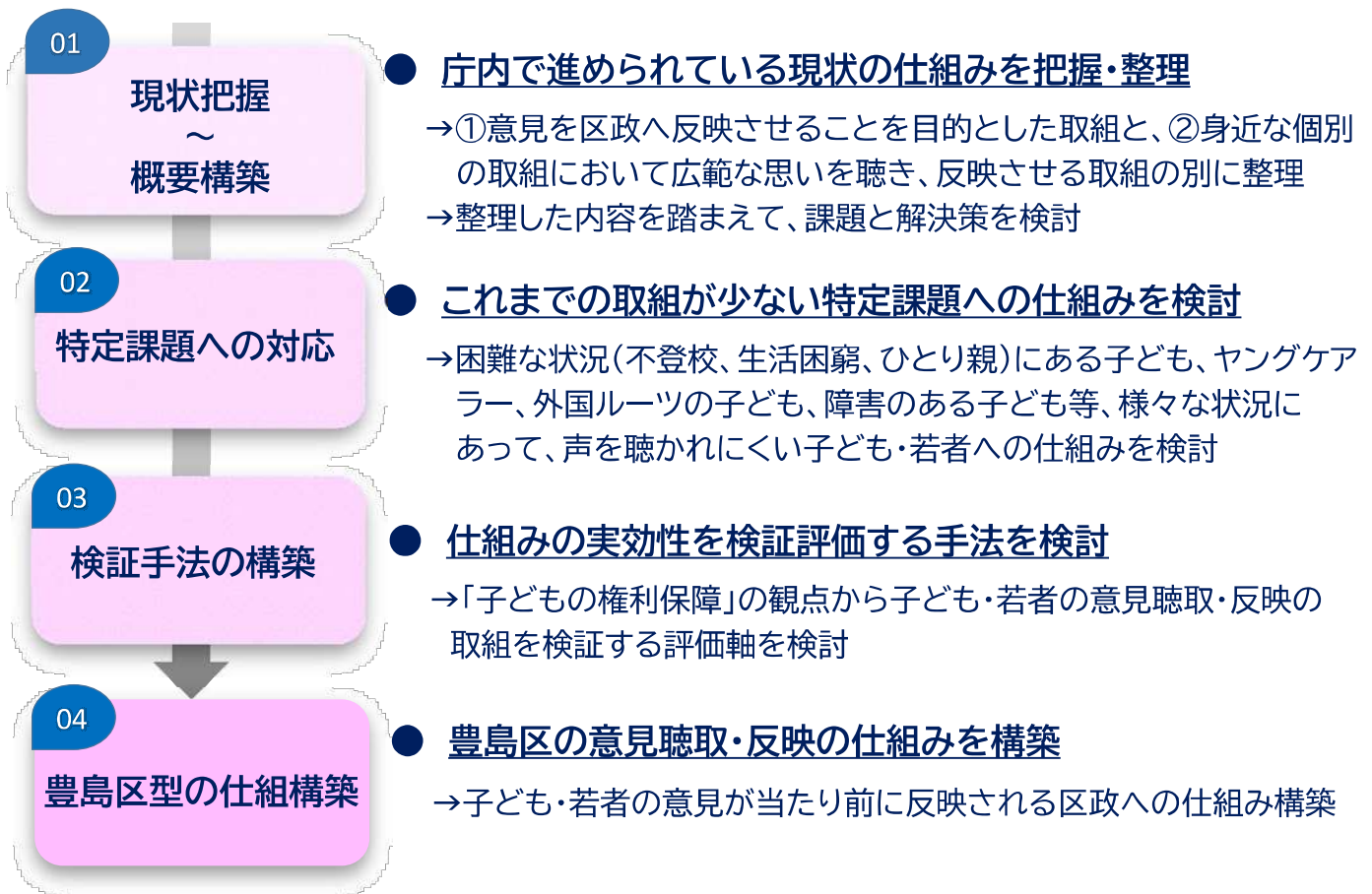
【豊島区子ども・若者アクションステップ】



STEP1	意見を聴く対象の検討、テーマ設定、実施体制構築、人員確保、等
STEP2	STEP1の内容について、対象からの意見聴取
STEP3	STEP2で聴いた意見を受け止め、どのように反映するのかを検討し、事業を実施
STEP4	STEP2で聴いた意見がどのように扱われたのかを対象へ説明
STEP5	STEP1～4の取組について、点検・評価し、施策を改善

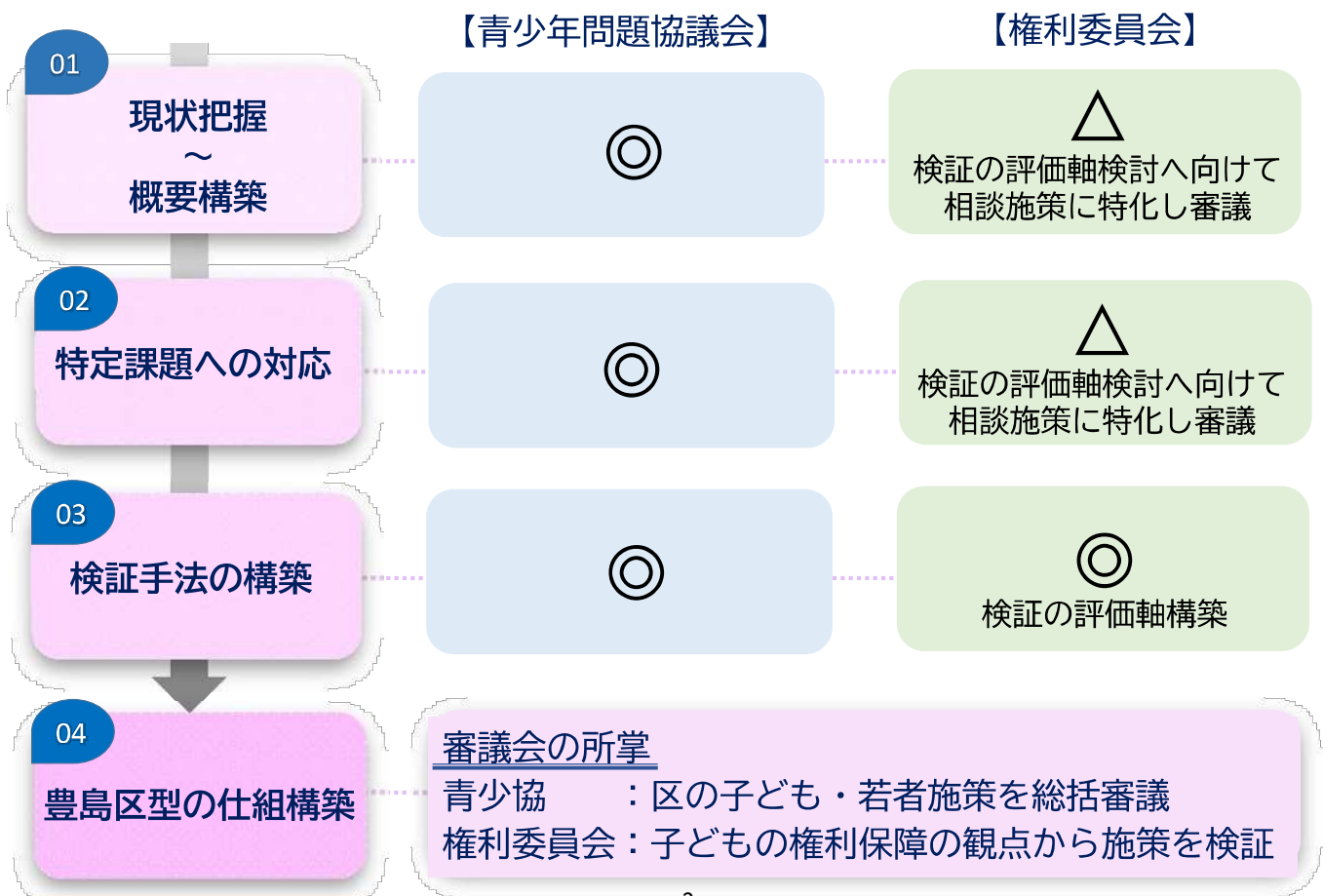
➡ 「豊島区子ども・若者アクションステップ」の活用により、各施策に子ども・若者等の意見を反映する効果的な仕組を構築する。

02 | 仕組構築へ向けたロードマップ



2

03 | 仕組構築へ向けた附属機関での審議



3

04 | 令和7年度の取組みについて(実績)

●主な審議事項と開催実績

(1) 審議事項

- ① 子ども・若者の意見を聴取・反映するための仕組みについて
- ② 子ども・若者総合計画（令和2～6年度）令和6年度実施状況について

(2) 開催実績

(★定例協議会、☆専門委員会)

年月	回数	主な議題
R7年 7月	★第1回	・会長・副会長選出 ・第33期の運営について ・令和7年度の取組案について
8月 ～2月	☆第1回	・区内で進められている 意見聴取・反映の取組みについて
	☆第2回	・特定課題に対する 意見聴取・反映の取組みについて
	☆第3回	・仕組みの実効性を点検・評価する 検証手法について
R8年 3月	★第2回	・豊島区子ども・若者の意見を聴取・反映する仕組みについて ・子ども・若者総合計画 令和6年度実施状況について

4

05 | 豊島区の意見聴取・反映の仕組みについて

1 「声を届けあい ともにつくるためのアイデアブック（案）」の作成

- 計画にある、子ども・若者の意見聴取・反映の**考え方**や**進め方**を整理し、区や**関係者の共通の手引き**としていくことを目的に作成
※作成にあたっては、子どもの権利相談室や関係所管課からの意見を反映
- また、日々の実務における具体的な**参考資料・事例集**としても活用いただけるよう構成
- **今後は、実際の取組事例の蓄積や、研修を通じて、以下の視点によりブラッシュアップ**
 - ① 子ども・若者に直接関わる行政職員や施設職員、及びNPO等民間団体のスタッフが場面や目的に応じて活用
 - ② それぞれの現場で子ども・若者への取組に反映



手引きを暫定版として策定

令和8年度に試行利用し、実務者や子ども・若者の声を踏まえ初版とする方向

5

05 | 豊島区の意見聴取・反映の仕組みについて

2 検証手法の構築（豊島区子どもの権利委員会）

→ 仕組みの実効性を検証評価する手法の検討として、「子どもの権利保障」の観点から子ども・若者の意見聴取・反映の取組を検証する評価軸を検討

令和7年度の取組

- 書面での評価に加えて、
現地調査を試行的に実施

①事業所管課の書面による事業評価
これまで実施してきた「子どもの権利保障」の観点からの事業評価を実施

②権利委員会の現地調査による事業評価（R7追加＜試行＞）
これまで実施してきた事業評価が改定計画下においても機能するの
かを確認

現地調査を
重点化

令和8年度からの取組

- 7年度の成果を踏まえ、現地調査を核とした検証方式へブラッシュアップ

①重点事業を定めた集中的な現地調査を核とした検証
書面評価に加えて現地調査を行い、事業の背景も含めた評価を行うことで、評価の質的向上を図る

②子どもの権利の視点からの区施策の検証
子ども・若者のライフステージ全般にわたる区施策について、権利保障の仕組みが構築されているか、また、子どもの権利の視点が施策体系全体の中で一貫して位置付けられているのかという観点から、総合的な検証を実施

6

≪令和7年度子どもの権利保障に関する施策の調査結果(抜粋)≫

①子どもの意見表明・参加の仕組みづくり

目標：子どもが意見表明や社会参加できる機会を確保します。
内容：意見表明や参加を促進するための事業を実施します。

No.	事業名	事業目標				事業内容			
		目標	現状値 (令和元年度)	令和2年度 実績	令和3年度 実績	令和4年度 実績	令和5年度 実績	令和6年度 実績	目標値 (令和6年度)
8	利用者会議の開催	子どもが自分の意見を表明する機会や社会参加・参画の機会を充実させます。							子どもスキップや中高生センターにおいて、利用者会議を開催し、会議で出された意見などは、施設運営や行事に反映させます。
担当課	子ども若者課 放課後対策課	利用者会議開催数	—	44回	中高生センター：35回 子どもスキップ：42回	中高生センター：32回 子どもスキップ：105回	中高生センター：31回 子どもスキップ：139回	中高生センター：36回 子どもスキップ：145回	55回

【令和6年度子どもの権利保障に関する項目についての取組】

- (1) 事業を実施するにあたり、子どもたちへ事前の情報提供をどのように行っているか。
(2) 事業に子どもからの意見や思いをどのように活用しているか。

(1) 月のお知らせで周知するとともに、児童による自主組織が運営している施設にあっては、事前に希望者を募集しています（スキップ）。実施導入時に、利用者会議の目的・意義を毎回説明しています（ジャンプ）。
(2) 利用者会議で出された児童の欲しいおもちゃやスキップのルールなどの提案に基づいて、新しいおもちゃを購入したり、ルール決めなどを行っています（スキップ）。施設運営やイベントの企画、遊具等の購入時等に活用しています（ジャンプ）。

- (3) 子どもへ事業を知ってもらうため、広報・周知についてどのように取り組んでいるか。
(4) 実際に子どもたちが事業に参加もしくは利用してもらうために、広報・周知について工夫をしている点。

(3) 事前に月のお知らせで周知しています（スキップ）。毎月のお知らせやHP、SNS等を配信し周知しています（ジャンプ）。
(4) 基本的には当日に出席したすべての児童に参加してもらっています（スキップ）。参加の目的やメリットを伝えながら直接声を掛けています（ジャンプ）。

- (5) 事業に参加・利用した子どもが参加前と比べてどのような心境の変化があったか。
(6) 事業に参加した子どもの周りの大人（保護者等）の反応はどうだったか。

(5) 自らの意見を表現するとともに、他者の意見を尊重することの重要性を認識するとともに、コミュニケーション能力の向上にもつながっています（スキップ）。自ら自主企画を立ち上げ、活動する等意見や希望を気兼ねなく発言する様子が見られました（ジャンプ）。
(6) 児童の成長を実感できたとの声をいただいています（スキップ）。子ども権利擁護委員から、子どもたちの話を聞きスタッフと議論する場がとて有意義な取り組みであるとの意見をいただきました（ジャンプ）。

7

《令和7年度豊島区子どもの権利に関する推進計画に係る現地調査報告書(抜粋)》

対象事業	中高生センタージャンプ利用者会議
調査日時	9月27日(土)15時30分～17時
<p>【STEP1(企画する)】</p> <p>①実際に子どもたちが事業に参加もしくは利用してもらうために、広報・周知について工夫をしている点。(参画窓口の工夫)</p> <p>②事業を実施するにあたり、子どもたちへ事前の情報提供をどのように行っているか。(事業の目的・背景)</p> <p>③事業実施にあたり子どもからの意見や思いを活用しているか。</p>	
<p>【① 参画窓口の工夫について】</p> <p>○音楽室の利用者の優先登録の権利がこの事業を利用したい子どもには価値があるので、この事業に興味関心ある子どもにはしっかり周知ができている。</p> <p>○実際に多くの高校生が参加しており、参加する子どもたちに何らかの利益があることは大切だと感じた。</p> <p>○今回はこうした高校生が主体の参画になってしまっているが、別の運営会では別の目的で来ている子どもが参画しているということだった。そうだとすると、そのことを会議の際に周知してくれると良い。誰もが参加できる形式であることの良さが、当日初めて来所した子どもにとってはよくわからない形の会議になってしまっていることは残念であった。→どのような意見集約方法があるのか?</p> <p>○すでにこれまで実施した結果、このような全員が参加できる形になっているのかもしれないと思いつながら、もしこれまでやったことがない中、やはり子ども集団の中にも半期か1年ごと位で、運営委員会として、子どもたち利用者の意見を中間的に取りまとめる団体を組織して、運営側と交渉するという団体を作っても良いかな?と思った。直接交渉も良いが、広く意見を集約することにおとなの価値が大きくなっている。</p> <p>【② 事業の目的などについての事前情報提供について】</p> <p>【③ 事業実施にあたって子どもからの意見や思いを活用しているかについて】</p> <p>(事業全体での意見集約を私自身が理解していないことを前提に、)</p> <p>○第2段階として事務室前の黒板ボードをつかって、ポストイットで追加意見が出せるようにされているのはとても良い。また職員からの応答もされているのも良い。スペースの問題もあるが、もう少し大きいボードまたは、もう一つボードを横に置き、でその時に集中させたい議論を取り出すということも考えたら良いのではないかな。</p> <p>○①～③により、利用者会議は中高生センタージャンプ長崎の企画運営に子どもたちの声を反映させる仕組みとして機能していると判断できる。</p>	